策定によせて

燕市まちづくり住民会議（100人委員会）

会長　相場紀一

昨年の12月4日、正副会長が代表して市長に提言書をお渡しいたしました。市長からは「これだけ大勢の皆さんの意見をまとめていただいて、本当にありがとうございました」と心からの労いの言葉をいただきました。

今になってみますと、一昨年の10月4日の最初の会議以来、1年と2ヶ月間はとても長く大変でしたが、委員の皆さんと一緒に大きな事業をやり遂げたという達成感を感じているとともに、人生における素晴らしい想い出ができたと思っています。

市長から「燕の将来像を提言していただきたい」と熱い思いを託された時が、市長の1本のローソクの炎が私たち100人のローソクに灯された瞬間でした。合併してからわずか半年しか経過していないなか、知らない者同士、考え方も色々な方が集まり、最初はどうなることかと思いましたが、委員の皆さんの燕市を愛する真剣な思いのもと、燕市の将来像を描くという目標に向かって一枚岩となって、最後まで炎を広げ、燃やし続けたことで、「燕市総合計画素案」を作り上げることができたと確信しています。

そして、1本のローソクから始まり、100本に灯された炎は、3地区の地域審議会、総合計画審議会、さらに市議会へと広く灯され、熱い炎を燃やした多くの市民の思いによって「燕市総合計画」が策定されました。

これで第一幕は終わり、これから燕市の発展を実現するための第二幕が始まります。私たちの手で灯してきた炎が、燦然と光り輝き、さらに大きく数万本の光となって燕市の隅々にまで灯されるよう、この「燕市総合計画」の進捗を今後も見守っていきたいと思います。

平成20年3月

燕市総合計画審議会

会長　大山治郎

100人委員会をはじめ、広く大勢の市民の意見が吸収された「燕市総合計画」。市民の希望が集約され、燕市のこれからの方向性を示すこの計画を、私ども総合計画審議会で審議し、答申させていただきました。

今後は、行政と議会のもとで実施計画の策定が進められると思いますが、どうか、これまで審議してきた内容を、より良い燕市へと発展させるために役立てていただきたいと思います。

振り返ってみますと合併をしてから早や2年が経過いたしました。市民にとってはまだ不慣れな点がたくさんあります。しかし、私は燕市には3市町が合併したことによる素晴らしい資産がこれからの力として与えられていると思います。

燕地区には、県央の表玄関としての燕三条駅があり、また、鎚起銅器、洋食器、ハウスウェアなど、生活や文化の中から生まれた誇るべき金属加工の技術が継承されており、歴史ある産業のまちとして栄えてきた経過があります。

吉田地区には、横山操氏、亀倉雄策氏に代表される高い芸術や文化があり、また、大規模な工業団地が構成され、優良な企業が集積しています。

分水地区においては、越後平野を救った大河津分水の大事業がこの地で行われたという素晴らしい歴史がありますし、国上山、五合庵に暮らした良寛様と、その生き方そのものである日本の文化を発信しています。

産業、生活、文化など、深い関連があるこれら全てを市民の皆さんが共有し、これからの新しい燕市の力として、ぜひともまちの発展に活かしていっていただき、私たちの子どもたちや孫たちに住んでよかった、このまちが好きですと言われるようなまちづくりを行っていただきたいと心から願っております。

平成20年3月